



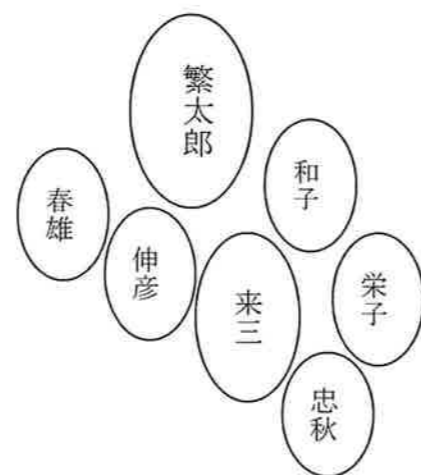
創業者の精神



廣瀬繁太郎(祖父)
(明治32年3月9日～
平成4年1月16日)



家族一緒の写真
(昭和19年9月
軍隊へ入営直前)



戦後も早69年が経過しました。明治時代からの創業はともかく戦後の創業の会社も2代目、3代目とバトンタッチしていきます。バトンタッチして月日が過ぎれば、創業者の考えは薄れていきます。

その創業者の深い考えは、会社のDNAとして残すには、文章化し残すべきだと思います。

下記は広瀬会計事務所の精神です。

明治三十二年三月九日、愛知県東加茂郡足助町という人口3,000人程の山間の片田舎で、刃物鍛冶の長男に生まれた廣瀬繁太郎は、家業が適せず少年の頃より都会に憧れる。

大正六年、商いの町大阪の地に職を求め、ある綿布問屋に奉公した。不況もあってその店は倒産し、初志の意にはならずある計理事務所に転職する。

昭和五年、商いの成長、永続的発展には必ず会計が必要と自ら会計事務所を開設する。そして、会計の成熟には人の成長が必要な条件であることに気づき、その後は人づくりの世話を労することをいとわなくなる。

又、長男 廣瀬来三は戦争から帰り、昭和二十二年より税務署勤務する。

繁太郎と志を同じくする来三は、日本の未来に貢献するため、昭和三十年大阪国税局を退官し、税務会計事務所を京都で開設する。

『日本の中小企業の発展を、会計を通して後方から支援する役割に徹し、人の世話をし、会計が成熟する人づくりをしていくことを決意する。』

そして京都の地で会計事務所として発展していくこととなり、現在の税理士法人 広瀬となる。

—創業者(廣瀬繁太郎)の生活信条—

心ゆたかに、暮らしは地味に、いつも忘れぬ感謝と祈願。
無理なく無駄なく、ものごとにこだわらなく、常に水のような透明な心であり、常に相手の立場に立って思いやる気持ちを。

税理士法人 広瀬 の経営理念(現在)

「常に明るく前向きに、共に人を育て、共に人生を創る」